

令和 6 年 6 月 24 日現在

機関番号：12401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K02356

研究課題名（和文）フランス革命期併合地・姉妹共和国における「公教育組織法」の施行・伝播とその受容

研究課題名（英文）The promulgation and appropriation of the public instruction law in the annexed territories and sister republics during the French revolution

研究代表者

小林 亜子（KOBAYASHI, AKO）

埼玉大学・人文社会科学研究科・教授

研究者番号：90225491

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：フランス革命期、フランスは隣接地を併合し、その外周には姉妹共和国を樹立していた。この時期に採択された公教育組織法（1795）は併合地にも施行され姉妹共和国にも影響を与えた。本研究はフランス側未刊行史料のみでなく当時の併合地・姉妹共和国側の史料についても調査を行い、当該地域の研究者によっても未解明だった併合地・姉妹共和国の公教育関係史料をフランス国立公文書館に発見しただけではなく、併合地・姉妹共和国側に残る史料の存在もつきとめ、当該時期の公教育組織法の施行・受容と伝播の具体像を明らかにした。さらに公教育を通してのフランス革命の国外への影響という視点から国際学会で報告を重ね国際比較研究に貢献した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

フランス革命後半期に採択された公教育組織法（1795年）は革命後初の総合的体系的公教育法として施行されたが、この時期の公教育の実態を知るための刊行史料がなくフランスにおいても研究が行われていなかった。本研究は併合地や姉妹共和国も含む公教育関係手稿史料がフランス国立公文書館に未整理で保存されていること、当時の併合地等にあたる地域にも様々な史料が残されていることを解明し、これら未刊行史料の分析により、公教育組織法が総裁政府期に併合地にも施行され姉妹共和国にも影響を与えたことを明らかにした。公教育という視点から革命の伝播と受容を捉え直し、啓蒙思想とフランス革命をめぐる古典的問いに新たな光をあてた。

研究成果の概要（英文）：This research aimed at delighting the promulgation and appropriation of the public instruction law (1795) in the annexed territories and sister republics (republiques soeurs) under the war of the French Revolution. By analysing previously unused manuscripts sources of the Nationale Archives of France(Archives Nationales, Paris) and those of the annexed territories and sister republics, this research revealed how the cosmopolitanism of the Age of Enlightenment was transformed during the war of the French Revolution and contributed to international comparative historical research (Colloque international, Cosmopolitismes et patriotismes au temps des Revolution, Vizille, 2019 ; XXIII International Congress of Historical Sciences, Poznan, 2020/2022).

研究分野：歴史学・教育史

キーワード：フランス革命 公教育 総裁政府 革命戦争 併合地 姉妹共和国

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

フランス革命期に、革命戦争の中でフランスは隣接地を併合し、その外周には姉妹共和国を樹立していた。総裁政府期の併合地は、現在のドイツ、ベルギー、オランダ、スイス、イタリア方面へと広がっていた。この時期に採択された革命後初の総合的・体系的な公教育組織法(1795年)は、併合地にも施行され、姉妹共和国にも影響を与えた。併合地への公教育の施行は、フランス革命後期、総裁政府期(1795~99年)に本格化し、共和三年憲法の採択(1795年)と、公教育組織法の成立(1795年)をうけて、総裁政府は、併合地も含めたフランスのすべての県に対して、極めて精力的に公教育の整備に取り組んでいた。しかし、総裁政府期の併合地や姉妹共和国における公教育の状況については、フランスにおいても、またドイツ、ベルギー、スイスなどの当時、併合地や姉妹共和国であった地域においても、ほとんど研究が行われないうま今日にいたっている。

その最大の原因は、総裁政府期の公教育についての刊行史料が存在しない点にあった。これまで革命期公教育史研究の主要史料とされてきたギョーム編史料集は、革命の前半期、すなわち、立法議会期(1791~92年)と国民公会期(1792~95年)の公教育委員会関係史料を集めたものであったため、革命後半期の総裁政府期の公教育については、この史料集によっては知ることができなかった。刊行史料の存在する革命前半期についてのみ研究が行われてきたことは、革命後半期の公教育研究の空白を生んだばかりでなく、前半期の公教育をめぐる論争に焦点をあてた思想研究に重点が置かれることとなり、革命期の公教育史全体についても、「理論」面については、コンドルセに代表される近代公教育の理念を構築したとして高く評価されてきたものの、「実態」面については、なにも残さず、むしろ教育の断絶・混乱を生んだという否定的な評価が行われる傾向にあった。また、史料上の問題は、総裁政府期の革命戦争による併合地に対する公教育の施行状況や姉妹共和国への影響についての研究の空白ももたらしていたため、公教育論議における公教育の理念が、併合地の教育にどのように適用され、受容されたのかという重要な問題も扱われることがなかった。

しかし、革命後初の体系的・総合的な公教育組織法の施行状況を解明するためには、未刊行史料の調査が必要であることから、20年にわたりフランス国立公文書館の未整理の手稿史料の調査をすすめるなかで、公教育組織法が施行された当時の地方の県についての豊富な史料のみならず、併合地・姉妹共和国についても、現地の教育状況の調査報告、現地からの請願、現地への通達や回状など、貴重な史料が残されていることを発見した。また、併合地は、新たな県として再編されており、本国と同様に県単位で公教育組織法が施行されていたため、公教育組織法に基づいて設立・整備された当時の施設(それらは現在も学校、博物館、植物園、図書館として維持されているものも多い)や地方文書館にも、当時の史料が保存されていることをつきとめた。さらに、内務大臣による公教育の実態調査は、併合地に対しても、さらに姉妹共和国についても行われ、その史料も残されていること、併合地からも、公教育組織法に基づく施設の設立・整備要求を始めとする様々な請願が総裁政府へと送られていたことがわかってきたが、これらの史料についても、ほとんどが手稿史料であり目録もないため、フランスの研究者によっても、当該地域の研究者によっても研究がすすめられていないことがわかった。

一方、近年のフランス革命史の研究動向においては、総裁政府期の再評価がすすみ、併合地と姉妹共和国がフランス革命において果たした役割をこれまでとは異なった形で捉え直すことが提唱されてきていることから、申請者のこれまでの研究成果について、2014年のフランス革命225周年国際シンポジウム(於: ヴィジル)に招聘され報告したところ、高く評価していただいた。さらに、2015年には、同シンポジウムの主催者

であるフランス革命史研究所所長ピエール・セルナ教授を日本に招聘し申請者が主催するシンポジウムを開催するなど、フランス側との国際共同研究も積み重ねてきた。

このような国際比較共同研究の成果もふまえながら、本研究は、フランス側の史料のみではなく、当時の併合地・姉妹共和国側の史料を用いて、フランス革命期の併合地・姉妹共和国における公教育組織法の施行・伝播過程と受容の具体像を、反革命の動きも視野にいれつつ、実証的に明らかにすることをめざすこととした。

2. 研究の目的

フランス革命後半期に採択された革命後初の体系的・総合的な公教育組織法（1795年）について、フランス本国および、併合地・姉妹共和国も含めた手稿史料・未刊行史料の体系的な調査・収集・分析を行うことによって、刊行史料がないために研究上の空白となっていた公教育組織法（1795年）の具体的な施行と受容の状況を解明する。とくに、フランス国立公文書館の未整理の手稿史料の調査をすすめるなかで、公教育組織法が施行された当時の地方の県についての豊富な史料のみならず、併合地・姉妹共和国についても、現地の教育状況の調査報告、現地からの請願、現地への通達や回状など、貴重な史料が残されていることを発見していることを手掛かりに、これら史料の体系的な調査と分析を行う。また、併合地は、新たな県として再編されており、本国と同様に県単位で公教育組織法が施行されていたため、公教育に用いられていた当時の施設（現在も学校、博物館、植物園、図書館として維持されている施設）や地方文書館にも、史料が保存されていること、総裁政府期の内務大臣による公教育の実態調査は、併合地に対しても、さらに姉妹共和国についても行われており、併合地からも、学校をはじめ上記の公教育施設の設立についての様々な請願が総裁政府へと送られていたが、ほとんどが手稿史料であり目録もないため、フランスの研究者によっても、当該地域の研究者によっても研究がすすめられていないことから、これらの史料についても、調査・収集・分析を行う。

こうした史料の読解にもとづいて、フランス革命後半期、革命戦争下の併合地・姉妹共和国での公教育組織法の施行と受容、影響の具体像を明らかにしていくことを通して、公教育が当該地域の人々によってどのように受容されていたのか、公教育を通してフランス本国の人々と当該地域の人々との間にはいかなる関係が生まれていたのか、といった点を解明することにより、法の理念と受容の実態の両面から、革命期の公教育史を捉え直していくことを目的とする。

さらに、「人権宣言」で表明されていた諸原理に基づく「公教育」が、革命戦争下のフランス共和国のすべての地域（併合地や姉妹共和国を含む）に適用されることにより、人種や国籍を超えたフランス革命の遺産となる原理にまで昇華されたのではないかという仮説を検証し、フランス革命の伝播と受容についての旧来の図式からのみでは説明できなかった「革命の因果関係の複雑な構造」を併合地や姉妹共和国とのいわば鏡の関係のなかで捉えなおすことも目的としている。

3. 研究の方法

本研究は、フランス革命期の併合地・姉妹共和国における公教育組織法（1795年）の施行と受容の具体像、受容の背景と理由を解明していくために、一次史料（手稿史料、未刊行史料）の調査・収集・分析を重視した。本研究対象は、刊行史料が存在しない領域であり、手稿文書史料が複数の国にまたがって保存されていることから、フランスおよび当時の併合地・姉妹共和国にあたる地域（ベルギー・ドイツ・オランダ）の文書館・図書館・博物館等での手稿史料の調査・収集を、6年度に分けて行った（コロナ禍による渡航制限および現地文書館等の閉館があったため予定よりも長い年度を必要とした）。フランスでの調査から明らかになっていたこと、すなわち、当時の公教育組織法が現代において主たる公教育施設とされる学校のみならず、図書館、博物

館、植物園など多様な施設を公教育の場とすることを重視しており、実際に設立された学校以外の公教育施設が、フランス革命後も、フランス領ではなくなった後も、当該地域で維持されている事例の調査を重視し、こうした施設での調査・史料収集を文書館での史料調査とともにに行い、当該地域の公教育の施行と受容について、総合的に分析することとした。

4．研究成果

（平成 30 年度）

フランス革命期の併合地・姉妹共和国における公教育組織法の施行と受容の具体像、受容の背景と理由を解明していくために、「研究の目的」と「研究の方法」欄に記載のとおり、一次史料の調査・収集・分析を行った。併合地や姉妹共和国に設立された公教育施設の大半は、フランス領やフランスの影響下ではなくなった後も、当該地域の中等教育施設、高等教育施設、博物館、植物園、図書館、公文書館として存続している場合が想定よりも多いと確認できたことから、現在の当該施設および現地の文書館で、調査・史料収集を複数年度にわたって行うこととした。併合地・姉妹共和国であった地域は、ベルギー・ルクセンブルク・ドイツ・スイス・オランダ・イタリアにわたるため、本年度はフランス、ベルギーとオランダについて史料収集を行った。史料の調査・分析をすすめ、公教育を通してのフランス革命の国外への影響という視点から、フランス革命の伝播と受容という古典的な問いに新たな光をあて、啓蒙の世紀のコスモポリタニズムがフランス革命と革命戦争の過程でどのような内実（あるいは変容）を伴っていったのかについて明らかにし、研究成果の一部を、記載の論文としてまとめた。

（令和元年度）

併合地・姉妹共和国における公教育組織法の施行・伝播の具体的な過程と受容の状況については、史料上の困難もあり、従来、ほとんど扱われることがなかったため、本年度も、フランス側の史料のみではなく、当時の併合地・姉妹共和国側の一次史料の調査・収集析を行った。さらに、史料の分析をすすめるなかでフランス革命期の併合地・姉妹共和国における公教育組織法の施行と受容の具体像を解明することは、近年の革命史研究において、フランスだけではなく、フランスと諸外国との関係のなかで革命史を捉え直す動きが高まっていることを考え合わせると、18 世紀末のヨーロッパ世界でフランス革命が果たした役割を社会文化史的に位置づける上で不可欠の作業であること、そこに本研究の意義があることが明らかになってきた。具体的な調査対象としては、この時期に設立された公教育施設、なかでも、博物館、植物園は当時の姿をとどめているものがあることを前年度に発見しつつあったので、これらの施設および当該地域の文書館で、調査・史料収集を重点的にすすめた。それら史料の分析に基づき、本年度は、フランスで開催された国際シンポジウムにおいて、公教育を通してのフランス革命の国外への影響という視点から、啓蒙の世紀のコスモポリタニズムがフランス革命と革命戦争の過程でどのような内実（あるいは変容）を伴っていったのかについて報告を行った。また、同シンポジウムにおいては、フランス革命の伝播と受容という古典的な問いに新たな光をあてるべく、フランス革命をめぐる英仏の関係史を検討する部会を設け座長をつとめた。また、研究成果を、記載の論文としてまとめた。

（令和 2 年度）

昨年度にフランスで開催された国際シンポジウムにおいて行った本研究の成果報告、すなわち、公教育を通してのフランス革命の国外への影響という視点から、啓蒙の世紀のコスモポリタニズムがフランス革命と革命戦争の過程でどのような内実（あるいは変容）を伴っていったのかについて、欧米の研究者から頂いた質疑や

コメントをふまえて未読の史料の分析をすすめて研究の深化をはかるため、この時期に設立された公教育施設、なかでも、当時の姿をとどめている博物館、植物園などについて、前年度に続き、これらの施設および当該地域の文書館で、調査・史料収集をすすめ、成果を記載の論文・著書としてまとめた。

(令和3年度)

今年度は、前年度までに史料を調査・収集した公教育施設のそれぞれの設立にかかわった人々に焦点をあてて史料の分析をすすめ、総裁政府期の公教育組織法の特徴である科学教育の重視とそのための博物館の設立について、併合地・姉妹共和国における影響関係や受容の状況を解明し、成果を記載の論文・著書としてまとめた。さらに、フランス革命期のヴァンドリズムや革命戦争により貴重な遺産が破壊された経験をふまえて、人文諸科学と自然科学の教育・研究のための博物館がどのように構想され実現されたのかを、革命期の公教育政策において啓蒙思想の遺産を継承しつつ法制に組み込むうえで重要な役割を果たしたアンリ・グレゴワールに焦点をあててまとめ、国際シンポジウムで報告を行った。

(令和4年度)

今年度はそれぞれの公教育施設で行われた教育の内容や講義編成に重点をおいて史料の分析を行い、公教育組織法の受容の具体像を解明した。またこの公教育組織法が啓蒙思想の遺産を継承しつつ共和国人を形成する側面を持っていたことに焦点をあてて、国際学会で報告を行った。報告は本来2020年に予定されていたポツナム(ポーランド)での国際歴史学会議フランス革命史部会に向けて準備していたものであったが、コロナ禍による2年の延期を経ての開催が最終決定していた矢先に、ロシアのウクライナ侵攻という国際情勢の激変で、学会の開催も危ぶまれた。しかし本来4年に一度しか開催されない歴史学会最大の国際学会であるため、各国代表理事の尽力により、全体プログラムを再構成して開催の運びとなり、こうした国際情勢より、あらためて、革命戦争期を扱う本研究の意義が高く評価されて、全体会の基調講演を依頼され、革命期のナショナリズムとコスモポリタニズムを論じる報告を行うことができた。

(令和5年度)

本研究が対象とする調査対象地への海外渡航制限が緩和され、また公文書館等での調査も次第にコロナ禍以前の状態で可能になりつつあったことから、本研究が重視するフランス革命期の併合地・姉妹共和国側の一次史料の調査・収集のうち、未調査であった地域、とくに現在はフランス領ではないが当該時期に設立された公教育施設の残る地域(学校ではない形で残っている場合もある)についての史料収集・分析を行い、公教育組織法の受容過程の全体像の解明につとめた。

前年度に、本研究対象である公教育組織法が啓蒙思想の遺産を継承しつつ共和国人を形成する側面を持っていたことに焦点をあてて報告した、ポツナム(ポーランド)での国際歴史学会議における基調講演は、ロシアのウクライナ侵攻という国際情勢の激変により、革命戦争期を扱っていることの意義が高く評価され、次回の国際歴史学会議に向けてのフランス革命史シンポジウムにも招聘されたので、その報告準備を行った。さらに、ポーランドでの報告を発展させて、国内に向けても論文をまとめ刊行することができたのを契機に、海外研究者を招聘しての学会や研究会において、フランス革命期のみならずより広い時代と地域についてナショナリズムとコスモポリタニズムをめぐる国際的な研究を行うプロジェクトに向けて海外研究者と討議を重ねた。

それらの成果の一部を記載の論文として刊行するとともに、フランス革命史研究で国際的に活躍するピエール・セルナ(パリ大学)教授を共同研究者とする国際共同研究加速基金(海外連携研究)を申請し、採択されたので(代表 山崎敬一、2023年9月~2026年3月)本研究を本格的な国際共同研究へと発展させることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計68件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

| | |
|---------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 111 |
| 2. 論文標題 歴史学は人口の高齢化現象をどのように分析してきたか | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 『新情報』、新情報センター | 6. 最初と最後の頁 32-40 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 1188号 |
| 2. 論文標題 西洋史学からみたナショナル・ヒストリーにもグローバル・ヒストリーにも回収されない歴史 集団の 歴史と個人の歴史の関係を再考するために | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 『思想』3月号、岩波書店 | 6. 最初と最後の頁 147-172 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 360 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題 - 177 - | 5. 発行年 2024年 |
| 3. 雑誌名 『ESTRELA』、統計情報研究開発センター | 6. 最初と最後の頁 35-39 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 359 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題 - 176 - | 5. 発行年 2024年 |
| 3. 雑誌名 『ESTRELA』、統計情報研究開発センター | 6. 最初と最後の頁 60-64 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 358 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題 - 175 - | 5. 発行年 2024年 |
| 3. 雑誌名 『ESTRELA』、統計情報研究開発センター | 6. 最初と最後の頁 21-25 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 357 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題 - 174 - | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 『ESTRELA』、統計情報研究開発センター | 6. 最初と最後の頁 25-29 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 356 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題 - 173 - | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 『ESTRELA』、統計情報研究開発センター | 6. 最初と最後の頁 25-29 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 354 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題 - 172 - | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 『ESTRELA』、統計情報研究開発センター | 6. 最初と最後の頁 22-25 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 353 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題 - 171 - | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 『ESTRELA』、統計情報研究開発センター | 6. 最初と最後の頁 35-39 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 352 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題 - 170 - | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 『ESTRELA』、統計情報研究開発センター | 6. 最初と最後の頁 60-63 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 351 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題 - 169 - | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 『ESTRELA』、統計情報研究開発センター | 6. 最初と最後の頁 23-27 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 350 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題 - 168 - | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 『ESTRELA』、統計情報研究開発センター | 6. 最初と最後の頁 21-25 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 349 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題 - 167 - | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 『ESTRELA』、統計情報研究開発センター | 6. 最初と最後の頁 24-27 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 348 |
| 2. 論文標題 「フランスの植民地と人口問題 (その166)」 | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 『ESTRELA』、統計情報研究開発センター | 6. 最初と最後の頁 36-40 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 347 |
| 2. 論文標題 「フランスの植民地と人口問題 (その165)」 | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 『ESTRELA』、統計情報研究開発センター | 6. 最初と最後の頁 33-37 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 346 |
| 2. 論文標題 「フランスの植民地と人口問題 (その164)」 | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 『ESTRELA』、統計情報研究開発センター | 6. 最初と最後の頁 20-24 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 344 |
| 2. 論文標題 「フランスの植民地と人口問題（その163）」 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 『ESTRELA』、統計情報研究開発センター | 6. 最初と最後の頁 21-25 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 343 |
| 2. 論文標題 「フランスの植民地と人口問題（その162）」 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 『ESTRELA』、統計情報研究開発センター | 6. 最初と最後の頁 34-38 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 341 |
| 2. 論文標題 「フランスの植民地と人口問題（その161）」 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 『ESTRELA』、統計情報研究開発センター | 6. 最初と最後の頁 35-39 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 340 |
| 2. 論文標題 「フランスの植民地と人口問題（その160）」 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 『ESTRELA』、統計情報研究開発センター | 6. 最初と最後の頁 35-39 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 339 |
| 2. 論文標題 「フランスの植民地と人口問題（その159）」 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 『ESTRELA』、統計情報研究開発センター | 6. 最初と最後の頁 32-35 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 338 |
| 2. 論文標題 「フランスの植民地と人口問題（その158）」 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 『ESTRELA』、統計情報研究開発センター | 6. 最初と最後の頁 32-36 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 337 |
| 2. 論文標題 「フランスの植民地と人口問題（その157）」 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 『ESTRELA』、統計情報研究開発センター | 6. 最初と最後の頁 28-32 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 336 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題（156） | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 34-37 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 335 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題 (155) | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 38-41 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 334 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題 (154) | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 30-34 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 333 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題 (153) | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 25-29 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 332 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題 (152) | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 32-36 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 331 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題 (151) | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 30-37 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 330 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題 (150) | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 28-31 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 329 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題 (149) | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 34-37 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 328 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題 (148) | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 32-36 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 327 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題 (147) | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 32-37 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 326 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題 (146) | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 28-32 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 325 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題 (145) | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 22-26 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 324 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題 (その144) | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 30-35 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 323 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題(その143) | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 21-25 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 322 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題(その142) | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 34-37 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 321 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題(その141) | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 29-32 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 320 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題(その140) | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 40-43 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 319 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題(その139) | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 38-41 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 318 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題(その138) | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 38-41 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 317 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題(その137) | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 30-33 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 316 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題(その136) | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 40-43 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 315 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題(その135) | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 29-32 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 314 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題(その134) | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 V | 6. 最初と最後の頁 40-43 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 313 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題(その133) | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 20-23 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 312 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題(その132) | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 24-27 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 311 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題(その131) | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 34-37 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 310 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題(その130) | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 28-31 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 309 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題(その129) | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 26-29 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 308 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題(その128) | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 40-43 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 307 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題(その127) | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 32-35 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 306 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題(その126) | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 17-21 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 305 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題(その125) | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 28-31 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 304 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題(その124) | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 34-37 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 302 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題(その123) | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 36-39 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 301 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題(その122) | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 24-29 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 721 |
| 2. 論文標題 フランス革命と植物園--公教育組織法と啓蒙の実験 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 歴史と地理 世界史の研究 | 6. 最初と最後の頁 1-24 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 300 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題(その121) | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 52-55 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 299 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題(その120) | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 26-29 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 297 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題(その119) | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 26-29 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 296 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題(その118) | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 34-37 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 294 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題(その117) | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 36-39 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 293 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題(その116) | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 26-29 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 292 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題(その115) | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 32-35 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 291 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題(その114) | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 27-31 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林亜子 | 4. 巻 290 |
| 2. 論文標題 フランスの植民地と人口問題(その113) | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 ESTRELA | 6. 最初と最後の頁 21-25 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 4件）

| |
|--|
| 1. 発表者名 Ako Kobayashi |
| 2. 発表標題 Former la nation et Instruire le citoyen pendant La Revolution |
| 3. 学会等名 XXIIIe Congres international des sciences historiques de Poznan 2020/2022 (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Ako Kobayashi |
| 2. 発表標題 Vandalism and museums during the French Revolution : Creation of the National Museum of Arts and Sciences by Henri Gregoire |
| 3. 学会等名 Museum, Multimodality and Embodiment, Sociological Robotics (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Ako Kobayashi |
| 2. 発表標題 La Republique d'etudiants et de professeurs aux Ecoles Centrales. L'enseignement et l'experience du cosmopolitisme pendant la guerre de la Revolution francaise |
| 3. 学会等名 Colloque international ; Cosmopolitismes et patriotismes au temps des Revolutions, Domaine de Vizille - Musee de la Revolution francaise (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Ako Kobayashi, Marisa Linton , Colin Jones , Remy Duthille , Pascal Dupuy |
| 2. 発表標題 L'histoire du Royaume-Uni ne sort pas de l'histoire de France : 200 ans de regard sur la Revolution francaise au-dela de la Manche |
| 3. 学会等名 Colloque international ; Cosmopolitismes et patriotismes au temps des Revolutions, Domaine de Vizille - Musee de la Revolution francaise (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

〔図書〕 計3件

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 小林亜子、川手圭一、黒木英充、松重充弘、瀧井一博、木村直樹ほか | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 帝国書院 | 5. 総ページ数 236 |
| 3. 書名 明解 歴史総合 指導資料 指導用教科書 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 小林亜子、川手圭一、黒木英充、松重充弘、滝井一博、木村直樹ほか | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 帝国書院 | 5. 総ページ数 227 |
| 3. 書名 明解 歴史総合 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 小林亜子、黒木英充、松重充浩、川手圭一、瀧井一博、木村直樹、奈良岡聡智 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 帝国書院 | 5. 総ページ数 232 |
| 3. 書名 歴史総合 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|---------------------------|-----------------------|----|
|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|

| | | | | |
|------|------------------|-----------------|--|--|
| フランス | フランス国立フランス革命史研究所 | フランス国立フランス革命博物館 | | |
|------|------------------|-----------------|--|--|